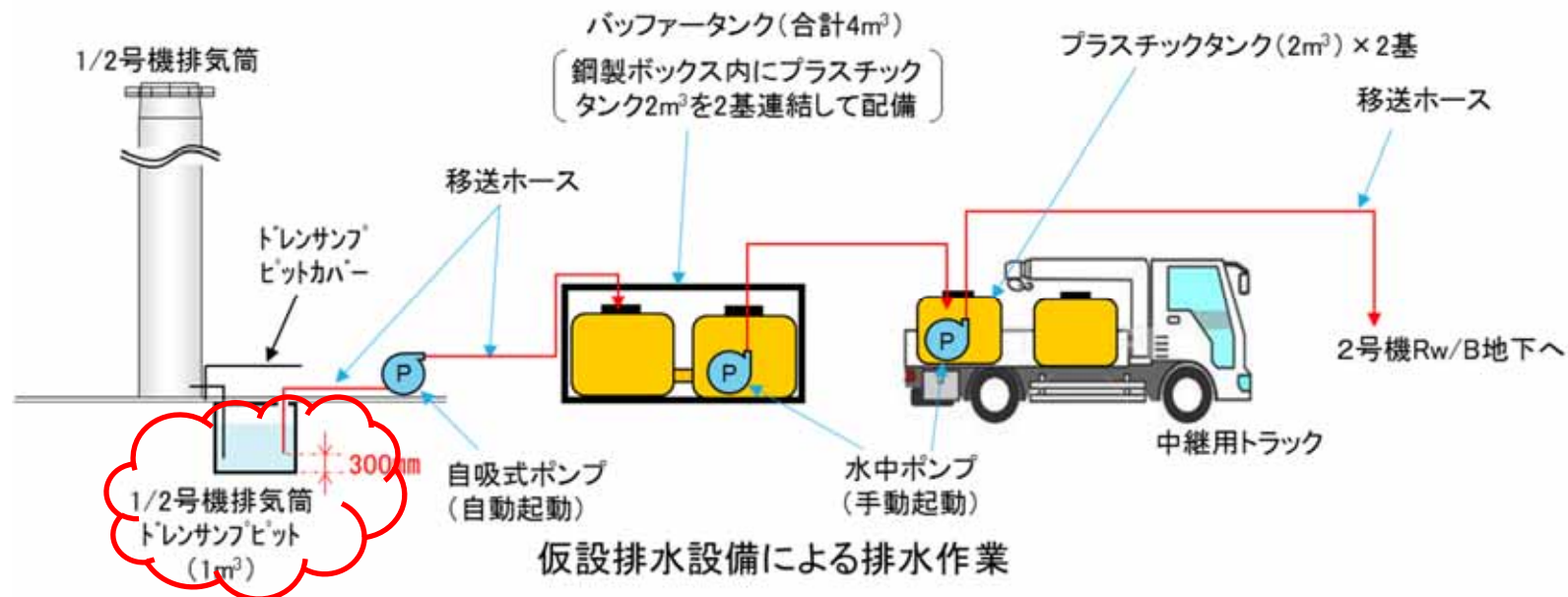


# 福島第一原子力発電所 1/2号機排気筒ドレンサンプピット 水位低下傾向の確認について

< 参 考 資 料 >  
2019年11月27日  
東京電力ホールディングス株式会社  
福島第一廃炉推進カンパニー

- 1/2号機排気筒ドレンサンプピット（以下：ピット）は、1/2号機排気筒内に入った降雨を溜めるために設置したものであり、水位400mmを超えたタイミングでポンプを起動して水を移送することで、都度330mmまで水位を低下させています。
- 当該ピットに対する最近の降雨による水位変動の傾向をつかむために水位データの推移を詳しく確認していたところ、水の移送をしていない時にも当該ピット水位が一定の水位(約325mm)まで低下する傾向を昨日(11月26日)確認しました。その後、過去に遡って水位データの水位を確認したところ、10月12日の台風19号以降に水位低下傾向が見られることが本日(11月27日)わかりました。
- なお、構内排水路モニタ、海水放射線モニタ、周辺のサブドレンピットの放射能濃度に有意な変動はなく、現時点で外部環境への影響は確認されておりません。

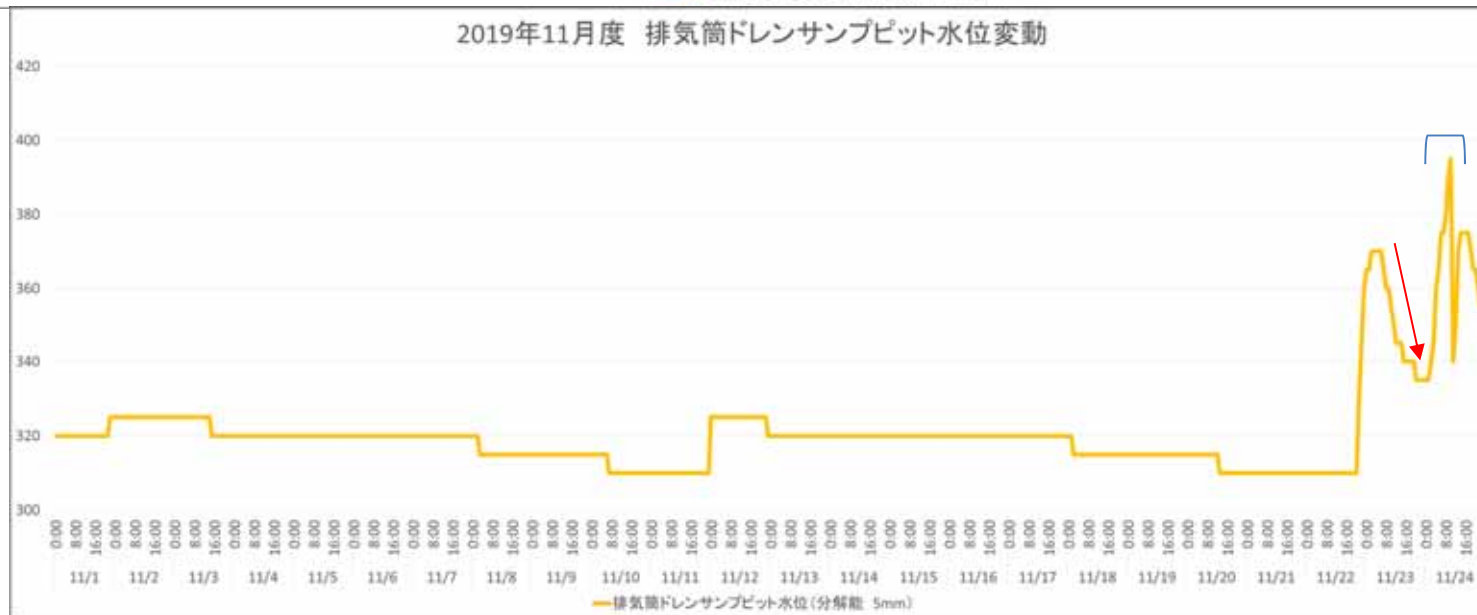
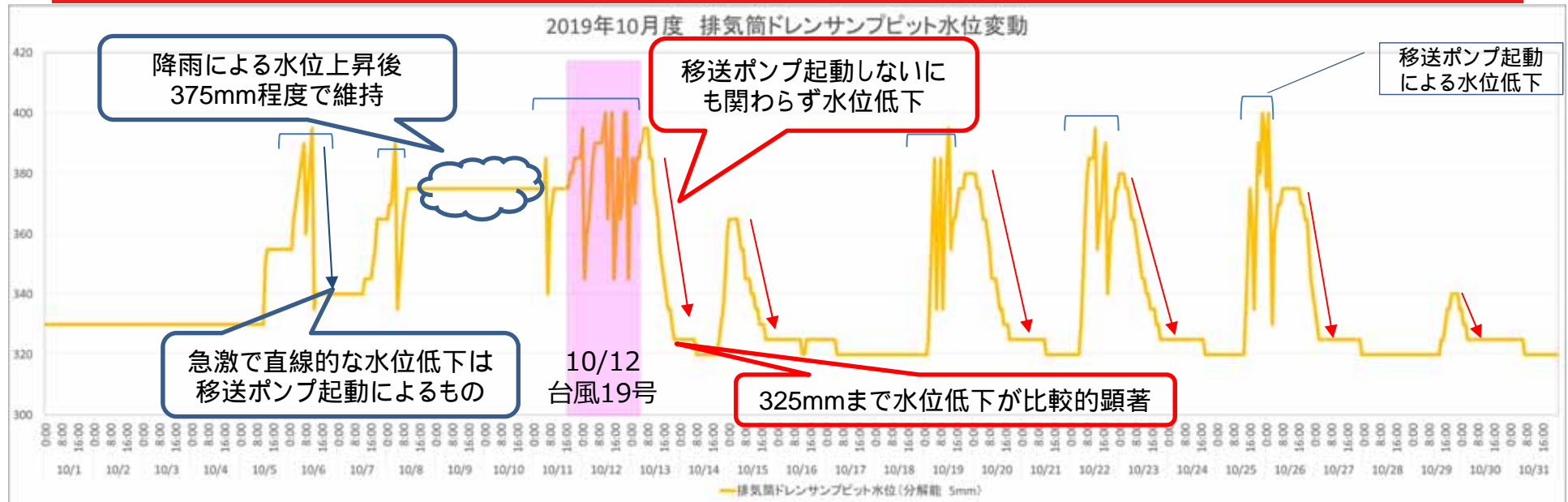


以下の通り可能な限りの対応を実施していく。

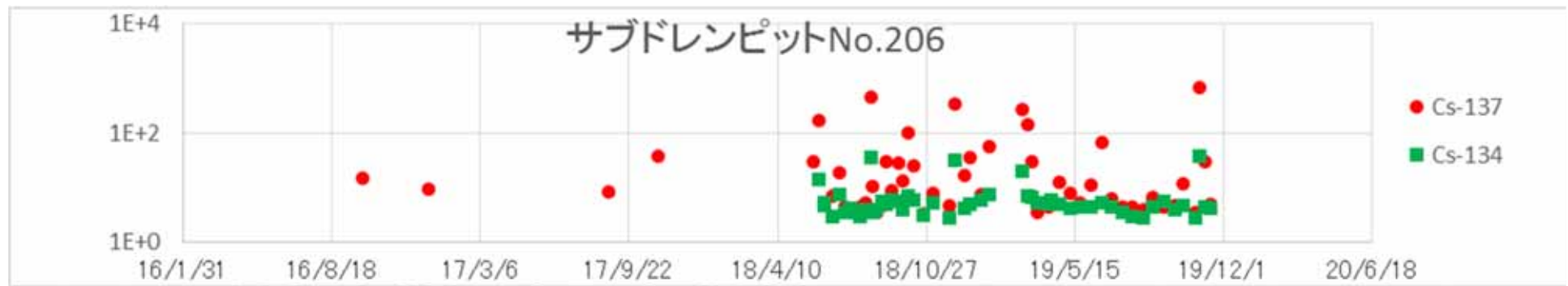
- ピットからの流出の可能性を踏まえた影響緩和対策
  - ✓ 水位低下が緩やかとなる325mm以下での水位管理の検討  
移送ポンプの起動・停止設定  
現状：400mm起動、330mm停止  
変更後：可能な限り低い水位管理となるような設定値を検討
  - ✓ 特異な事象の確実な検知および設定変更後の傾向の把握のため、24時間のトレンドデータの確認を1回／日の頻度で実施
- 調査の結果、以下の周辺での作業等と本事象との因果関係の有無について確認。他にも可能性のある作業等を抽出し関係を調査。
  - ✓ 排気筒解体作業における落下物の影響
  - ✓ 周辺の地盤改良の影響
  - ✓ 凍土壁の影響

なお、現状排気筒の解体作業が完了後に、排気筒上部に蓋を設置する計画であり、蓋設置後は排気筒内からピットへの雨水の流入はなくなるものと考えている。

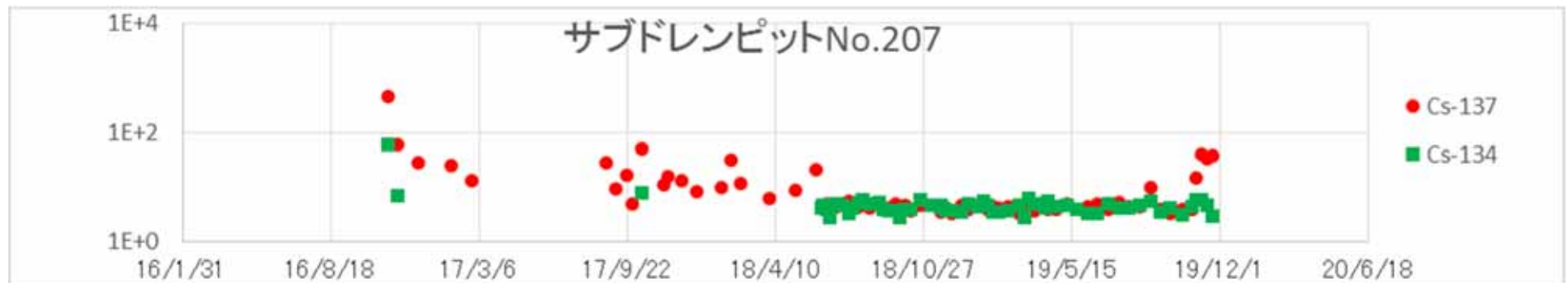
# 水位データ (10月、11月)



# 周辺の状況 (サブドレンピット)

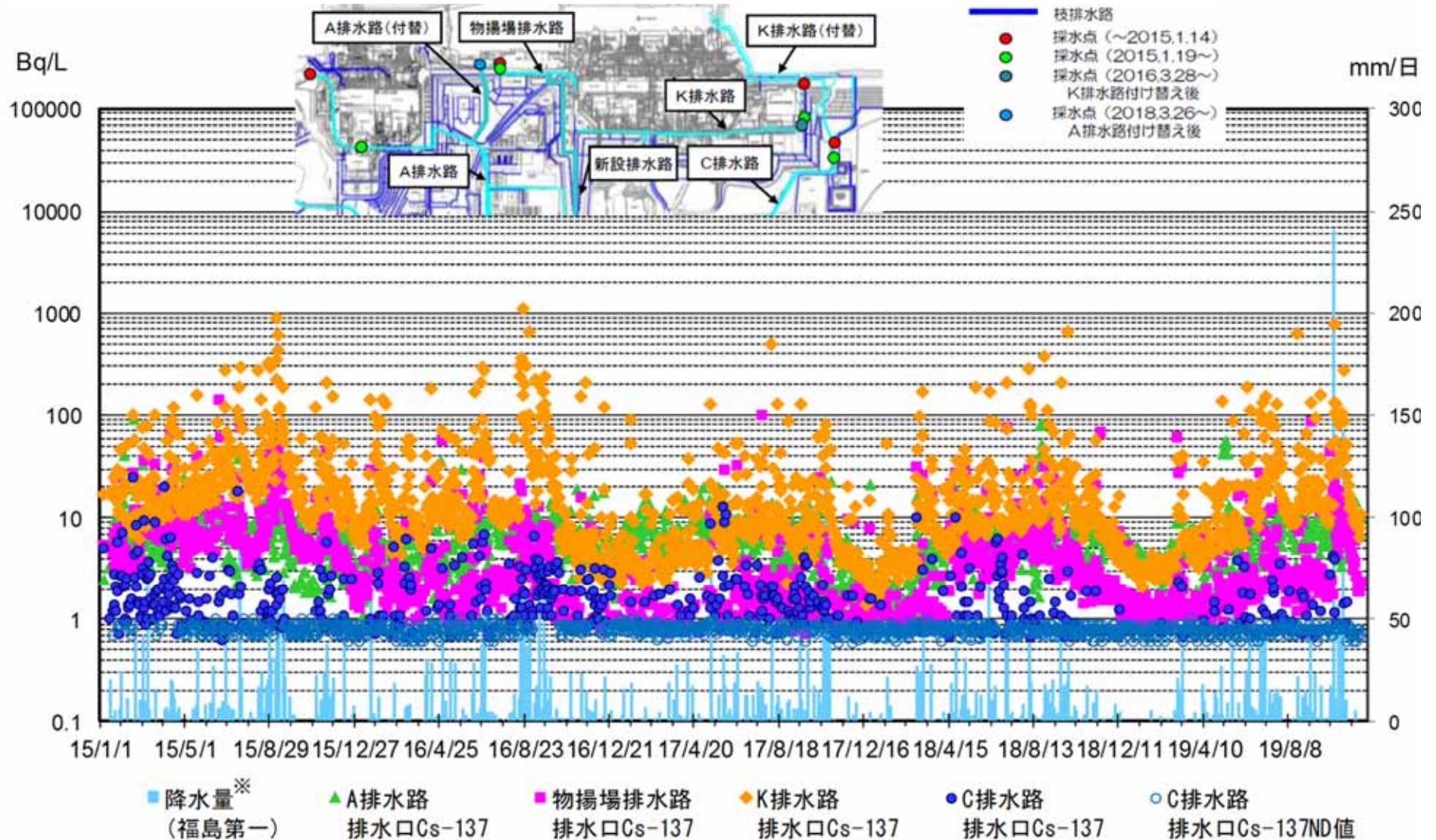


放射能濃度の傾向は、2019年10月前後で変わらない。



# 周辺の状況 (K排水路)

< K排水路 > 降雨時に上昇する傾向は、2019年10月前後で変わらない。



※: 2017/5/13~5/15 欠測につき浪江アマダスのデータを使用

注: 検出限界値未満の場合は○で示す。検出限界値は各地点とも同等

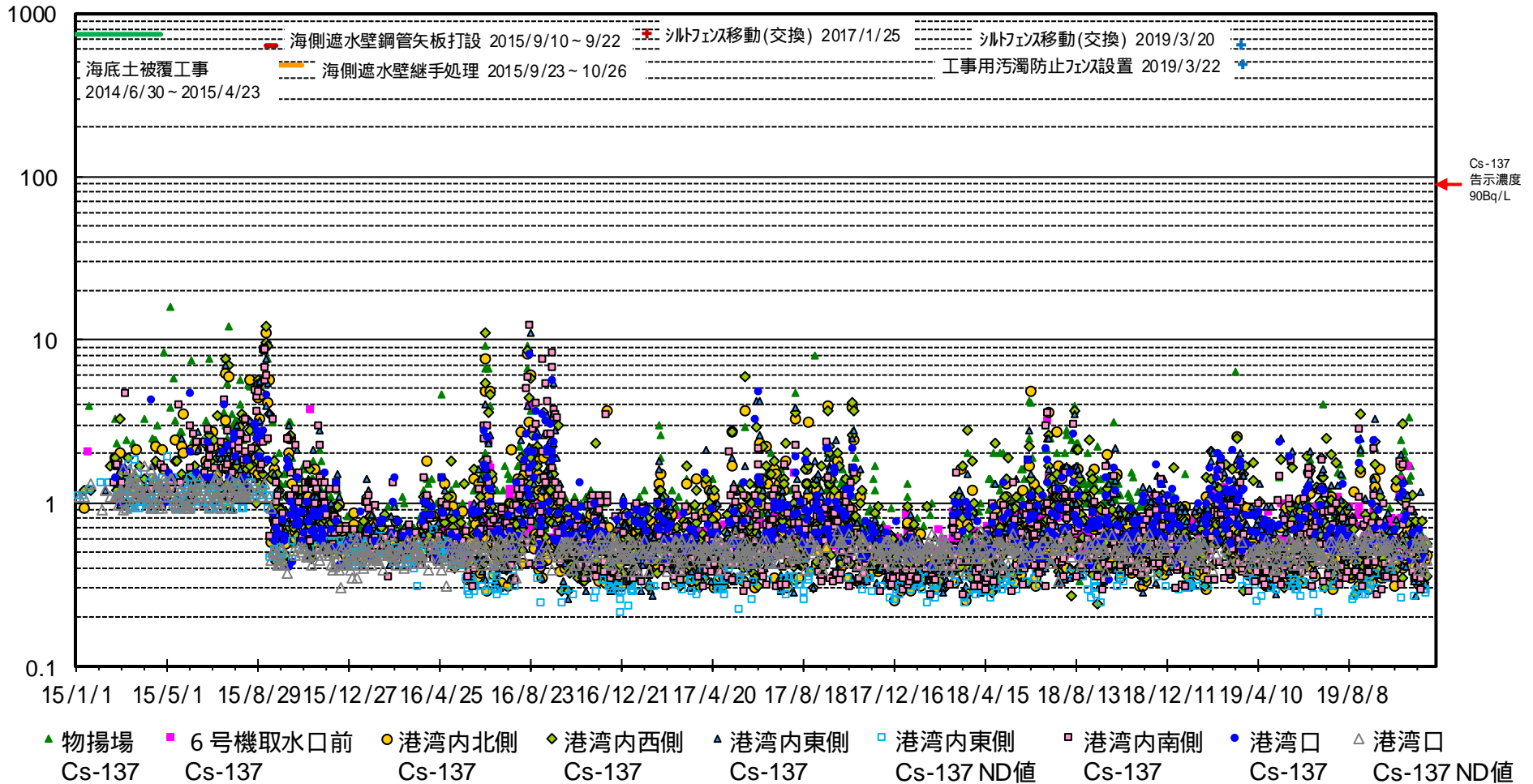
# 周辺の状況 (港湾)



<港湾内エリア> 降雨時に上昇する傾向は、2019年10月前後で変わらない。

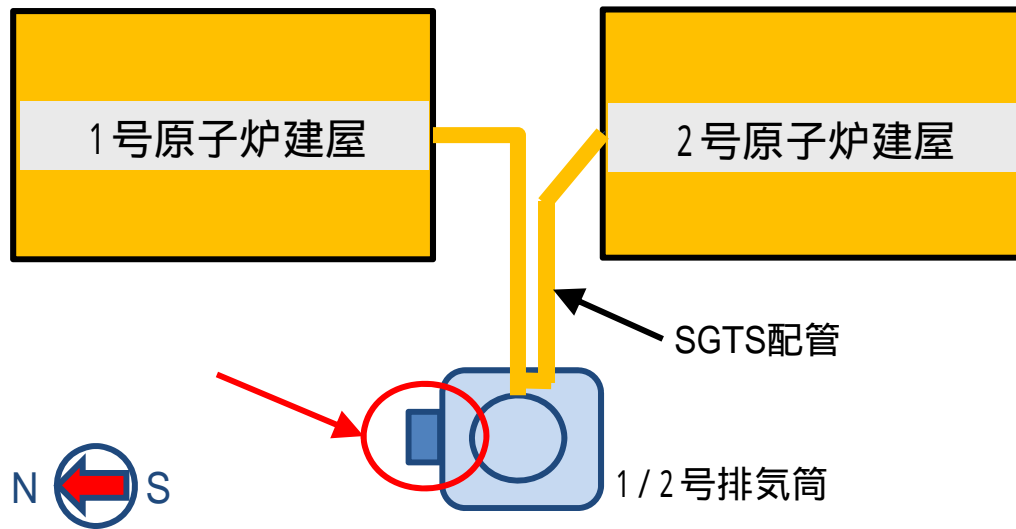
## 港湾内の海水の濃度推移 (Cs-137)

Bq/L

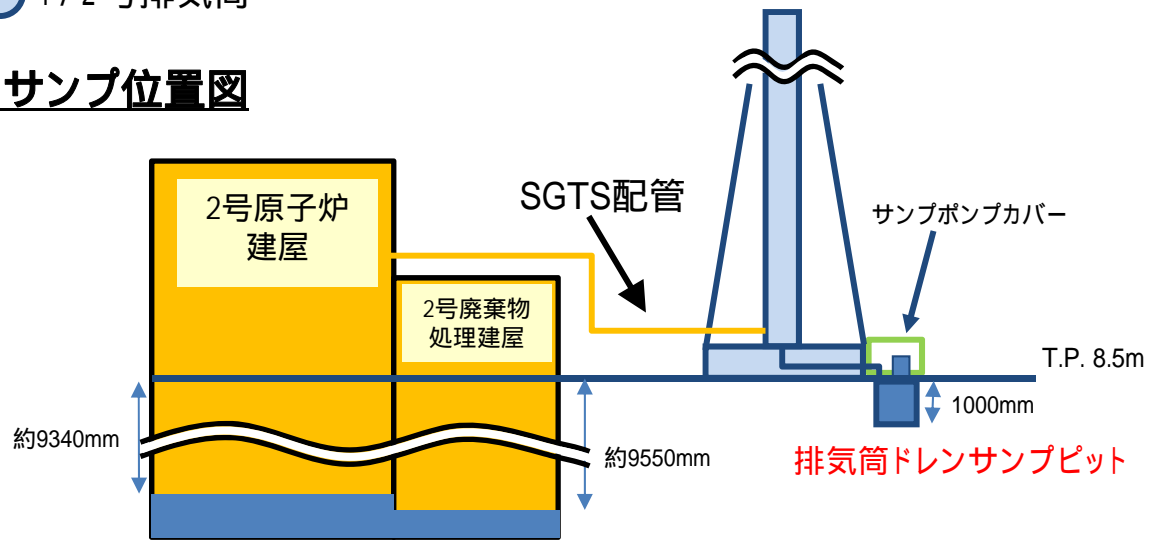


注: 2015/9/16以降、検出限界値を見直し(1.5 → 0.7Bq/L)。  
 港湾口が検出限界値未満の場合は 〇 で示す。(検出限界値は物揚場、6号機取水口前も同等)  
 港湾内北側・西側・東側・南側について2016/6/1以降、検出限界値を見直し(0.7 → 0.4Bq/L)。検出限界値未満の場合は 〇 で示す。

# (参考) ピットと建屋の関係



**1/2号排気筒ドレンサンプ位置図**



11月26日24:00時点  
2号機R/B水位 T.P.-843mm (HPCI室) 2号機RW/B水位 T.P.-1047mm

## 1・2号機排気筒ドレンサンプ周辺概要